

唐津市定住自立圏中心市宣言

現在の唐津市は、平成17年1月1日及び平成18年1月1日に旧唐津市、旧浜玉町、旧巖木町、旧相知町、旧北波多村、旧肥前町、旧鎮西町、旧呼子町、旧七山村の旧1市6町2村が合併を果たし、一つの圏域を形成しています。この地域は、歴史的にも江戸時代から唐津藩として結びつきが強い地域であり、旧唐津市を中心に経済圏や生活圏が形成されてきました。また、昭和46年から合併前までは、一部事務組合の「唐津・東松浦広域市町村圏組合」のもとで共同事業を行い、地域経営の効率化を図ってきました。

この圏域の中核的な役割を担ってきた、旧唐津市には、公共施設、商業、福祉医療、バスや鉄道の交通結節機能など、既に都市機能において一定の集積があり、加えて、現在も、道路整備、ユニバーサルデザイン化の推進、中高一貫校の誘致など都市機能の充実に取り組んでいます。

また、旧6町2村の地域には、中山間地の山々や平坦部の田畑、沿岸部の漁港、まちに潤いを与えてくれる水辺空間など、農業や漁業などを営む生活空間や落ち着いた居住空間があり、上下水道の整備や情報基盤の整備など住民の共生や日常生活を支える機能の充実に取り組んでいます。

こうしたことから、合併後の新市の総合計画においても海・山・川の響きあいが新市の魅力を輝かせ、新しい活力を創る「響創のまちづくり」を基本理念にまちづくりを進めているところです。

わが国の人口は、今後、急速に減少することが見込まれています。唐津市もその例外ではなく、新市の圏域で人口の推移を見ると、1985年（昭和60年）から2005年（平成17年）までの20年間に10,941人減少しています。一方で、高齢化率は、13.5%から24.1%と10.6ポイント上昇しています。このように、今後も人口減少が続き、高齢者数は増加する見込みであり、少子・高齢化、人口減少の進行に向けた対応は喫緊の課題となっています。

このような状況を踏まえ、人口の流出を食い止め、市民が安心して暮らすことのできる持続可能な地域社会をつくるため、中心地域の商業機能、各種生活関連サービス機能、医療機能の向上など、地域住民の生活を受け止める都市機能を充実させていくべき旧唐津市地域と、生活を守る上で必要不可欠な生活交通の維持確保、地域間の情報格差解消、食料生産、地域コミュニティの形成など、生活機能の充実を

必要とする旧6町2村の地域が担うべき機能を分担すると同時に、それぞれの機能を有機的に連携させ、「定住」のための、暮らしに必要な諸機能を確保することが必要になっています。

このため、旧唐津市を中心地域とし、旧6町2村の地域を周辺地域とした「唐津市定住自立圏」の構築を掲げ、唐津市にふさわしい施策を展開し、圏域全体の総合的なマネジメントを行うことにより、地域間の絆をさらに深め、その暮らしを支え合い、全体として魅力あふれる地域の形成を目指すことをここに宣言します。

平成21年9月8日

唐津市長 坂井俊之

定住自立圏形成の背景と取り組み

中心地域となる旧唐津市及び周辺地域である旧6町2村を含めた合併後の唐津市における地域の魅力を向上させていくための基盤となる都市機能の集積状況及び旧6町2村との連携・交流の状況並びに唐津市に居住する住民の生活機能を確保し、「集約とネットワーク」の考え方により展開しようとする取り組みは以下のとおりです。

■1. 旧唐津市における都市機能の集積状況

公共施設等による各種サービス機能、中核的な医療機能、大規模商業・娯楽機能その他行政及び民間分野における都市機能の集積状況は概ね以下のとおりであり、より高次の定住自立圏を形成する中心地域としての機能が確保されています。

	定住自立圏の目指すべき都市機能	施設名等	摘要・定義
医療・福祉	○地域がん診療連携拠点病院	唐津赤十字病院	厚生労働省 H19.3.31 取得
	○脳卒中超急性期医療機能	唐津赤十字病院、河畔病院	第5次佐賀県保健医療計画
	○急性心筋梗塞超急性期医療機能	唐津赤十字病院、済生会唐津病院	同上
	○糖尿病による透析医療法を行う機能	済生会唐津病院、唐津赤十字病院、岩本内科、藤崎病院、なばたけ冬野クリニック	同上
	○救急医療体制		
	一次救急医療(初期救急医療)	唐津救急医療センター	
	二次救急医療 (入院を要する救急医療)	<救急告示病院>唐津赤十字病院、済生会唐津病院、唐津第一病院、河畔病院 <病院群輪番制病院>内科3医療機関・外科5医療機関	
	三次救急医療(救命救急医療) <地域救命救急センター>	唐津赤十字病院	厚生労働省 H21.4.1 取得
	○地域災害医療センター (地域災害拠点病院)	唐津赤十字病院	第5次佐賀県保健医療計画
○地域医療支援病院	唐津赤十字病院	佐賀県指定 H19.7.31 取得	

	定住自立圏の目指すべき 都 市 機 能	施設名等	摘要・ 定義
医療・福祉	○地域周産期医療 (佐賀県二次医療機関) 分娩対応	唐津赤十字病院 久保田産婦人科・麻酔科病院、たなベクリ ニック産婦人科、外町レディースクリニック	第5次佐賀 県保健医療 計画
	○地域小児医療センター	唐津赤十字病院	同上
	○医療機関	病院・医院・診療所等(84施設) 歯科(43施設)	
	○児童相談所	佐賀県中央児童相談所唐津分室	
	○母子生活支援施設	双光園	
	○児童養護施設	慈光園	
	○助産施設	唐津赤十字病院附属助産施設	
	○主な児童福祉施設	保育所(18園) 児童館(7館) 児童センター(2施設)	
	○主な高齢者福祉施設	特別養護老人ホーム(3施設) 養護老人ホーム(1施設) 有料老人ホーム(4施設) 軽費老人ホーム(1施設)	
	○主な障害者福祉施設	身体障害者療護施設(1施設) 重症心身障害児施設(1施設) 知的障害児通園施設(1施設) 知的障害者更生施設(1施設)	
教育	○幼稚園	唐津幼稚園、唐津カトリック幼稚園、唐津 ルーテル幼稚園、すみれ幼稚園、リョーユ ー幼稚園、昭和幼稚園、エルアン幼稚園	
	○中高一貫校	佐賀県立唐津東中学校・唐津東高等学校 早稲田佐賀中学校・高等学校(H22.4月開 校予定)	
	○高等学校	唐津東高等学校、唐津西高等学校、唐津 南高等学校、唐津工業高等学校、唐津商 業高等学校	
	○大学(研究施設)	佐賀大学海浜台地生物環境研究センター	
	○専修専門学校	唐津看護専門学校、唐津ビジネスカレッ ジ、モードリゲル	
	○その他	国立唐津海上技術学校 唐津高等職業訓練校	

	定住自立圏の目指すべき 都 市 機 能	施設名等	摘要・ 定義
情報・娯 楽・文化・ スポーツ	○テレビ主要5局視聴	【テレビ朝日系列】KBC九州朝日放送 【テレビ東京系列】TVQ九州放送 【フジテレビ系列】STSサガテレビ、TNCテレビ西日本 【日本テレビ系列】FBS福岡放送 【TBS系列】RKB毎日放送	
	○ケーブルテレビ局	唐津ケーブルテレビジョン、唐津市	
	○大型文化ホール	唐津市民会館、唐津市文化体育館文化ホール、りふれホール	
	○図書館	唐津市近代図書館	
	○美術館等	河村美術館、近代図書館美術ホール	
	○大型スポーツ施設	佐賀県ヨットハーバー、唐津市文化体育館(柔道場、剣道場、弓道場、相撲場)、唐津市野球場、唐津市陸上競技場、唐津市屋内プール、庭球場、サッカー場・ラグビー場	
商業・金融	○大規模小売店舗	店舗面積 1,000㎡以上10,000㎡未満 18店舗 10,000㎡以上 2店舗	
	○商店街	唐津中央商店街(中町商店街、呉服町商店街、京町商店街、大手通り商店街) 西唐津商店街	
	○金融機関等	銀行等(24店舗)※ 郵便局(15箇所) 簡易郵便局(3箇所)	※本店及び支店数
交通	○鉄道駅	JR筑肥線:西唐津駅、唐津駅、和多田駅、東唐津駅、虹ノ松原駅(5駅) JR唐津線:西唐津駅、唐津駅、鬼塚駅、山本駅(4駅)	
	○バスターミナル	大手口バスセンター (県外)福岡方面 70本/日 長崎方面 6本/日 (旧6町2村方面) 厳木・相知方面 32本/日 北波多方面 41本/日 肥前方面 55本/日 鎮西方面 25本/日 呼子方面 76本/日 七山方面 38本/日	

	定住自立圏の目指すべき 都 市 機 能	施設名等	摘要・ 定義
交通	○重要港湾	唐津港	
	○高規格幹線道路	西九州自動車道 ・唐津道路(H21.12月全線供用予定) ・唐津伊万里道路(H23年度一部供用予定)	
行政	○国	佐賀地検唐津支部(法務省) 佐賀地方法務局唐津支局(法務省) 唐津税務署(財務省) 伊万里税関支署唐津出張所(財務省) 唐津公共職業安定所(厚生労働省) 唐津社会保険事務所(厚生労働省) 唐津労働基準監督署(厚生労働省) 九州農政局佐賀農政事務所唐津庁舎 (農林水産省) 九州農政局佐賀農政事務所 唐津統計・情報センター(農林水産省) 佐賀森林管理署唐津森林事務所 (農林水産省) 原子力安全・保安院玄海原子力保安検査官 事務所(経済産業省) 唐津海上保安部(国土交通省) 九州運輸局佐賀運輸支局唐津庁舎 (国土交通省) 九州地方整備局唐津港湾事務所 (国土交通省) 九州地方整備局佐賀国道事務所唐津維持 出張所(国土交通省) 九州地方整備局武雄河川事務所松浦川出 張所(国土交通省) 自衛隊佐賀地方協力本部唐津出張所 (防衛省)	
行政	○裁判所	唐津簡易裁判所 佐賀家庭裁判所唐津支部 佐賀地方裁判所唐津支部	
	○県	唐津土木事務所 唐津県税事務所 唐津農林事務所 中央児童相談所唐津分室 唐津保健福祉事務所 東松浦教育事務所 唐津警察署	

■2. 旧6町2村住民の都市機能利用状況

次表のとおり、旧6町2村の住民も旧唐津市に集積された都市機能を活用しているなど、旧唐津市の都市機能は周辺地域にも及んでおり、旧唐津市がこの地域の住民生活等において中心的な役割を担っています。

一次救急医療(唐津救急医療センター) 地区別患者数

	休日 (人)	小児夜間 (人)	総計 (人)	構成比 (%)
旧唐津市	4,268	3,162	7,430	55.6
旧6町2村	2,266	1,454	3,720	27.8
市 外	1,313	899	2,212	16.6
計	7,847	5,515	13,362	100.0

※平成17年度患者数調べ

二次救急医療(救急告示病院) 地区別患者数

	外来患者数 (人)	割合 (%)	入院患者数 (人)	割合 (%)
旧唐津市	118,477	61.8	89,727	53.1
旧6町2村	54,590	28.5	58,879	34.8
市 外	18,673	9.7	20,459	12.1
計	191,740	100.0	169,065	100.0

※救急告示病院への聞き取り(平成20年)

主な鉄道駅の年間乗降客数

駅 名	乗降客数(人)
唐 津 駅	1,552,876
西唐津駅	319,331
東唐津駅	485,609

※九州旅客鉄道株式会社(平成19年度)

唐津市近代図書館利用状況

	延べ利用者数 (人)	割合 (%)
旧唐津市	80,110	79.6
旧6町2村	19,348	19.2
市 外	1,175	1.2
計	100,633	100.0

※平成20年度利用状況調べ

唐津中央商店街来街客状況

	平日 (%)	休日 (%)
旧唐津市	80.8	73.0
旧6町2村	11.1	14.0
市 外	8.1	13.0
計	100.0	100.0

※平成20年度中央商店街購買動向調査

県立高等学校(旧唐津市内5校)地域別入学者数

	入学者数 (人)	割合 (%)
旧浜玉町	99	11.2
旧巖木町	9	1.0
旧相知町	55	6.2
旧北波多村	19	2.2
旧肥前町	50	5.7
旧鎮西町	41	4.6
旧呼子町	30	3.4
旧七山村	21	2.4
旧唐津市	471	53.5
市外	86	9.8
計	881	100.0

※平成21年度入学者数

旧唐津市内5校:唐津東高等学校、唐津西高等学校、唐津南高等学校、
唐津工業高等学校、唐津商業高等学校

■3. 唐津市に対する通勤通学割合

旧6町2村から旧唐津市への通勤・通学者数の状況

旧6町2村から都市機能集積地域である旧唐津市に対し、従業又は通学する就業者数及び通学者数を、常住する従業者数及び通学者数で除して得た数値(以下、「通勤通学割合」という。)は次表のとおりであり、旧唐津市はこの地域における住民生活等において中心的な役割を担っています。

旧6町2村からの状況

	常住就業者・ 通学者数(人)	うち旧唐津市での 従業・通学者数 (人)	割合 (%)
旧浜玉町	4,106	1,402	34.1
旧巖木町	2,476	359	14.5
旧相知町	3,790	1,137	30.0
旧北波多村	2,154	901	41.8
旧肥前町	3,189	1,186	37.2
旧鎮西町	2,794	843	30.2
旧呼子町	2,306	634	27.5
旧七山村	857	263	30.7
計	21,672	6,725	31.0

※平成12年国勢調査結果

■4. 展開しようとする取組

広域合併を果たした本市において、合併後の面積が487平方キロメートルという広大な圏域の中で中核的な役割を担ってきた旧唐津市には、公共施設、商業、福祉医療、バスや鉄道の交通結節機能など、既に都市機能において一定の集積があり、また、旧6町2村の地域には、中山間地の山々や平坦部の田畑、沿岸部の漁港、まさに潤いを与えてくれる水辺空間など、農業や漁業などを営む生活空間や落ち着いた居住空間があり、都市様態の異なる地域を抱え行政運営を行っています。

中心地域の商業機能、各種生活関連サービス機能、医療機能の向上など、地域住民の生活を受け止める都市機能を充実させていくべき旧唐津市地域と、生活を守る上で必要不可欠な生活交通の維持確保、地域間の情報格差解消、食料生産、地域コミュニティの形成など、生活機能の充実を必要とする旧6町2村の地域が担うべき機能を分担すると同時に、それぞれの機能を有機的に連携させ、「定住」のための、暮らしに必要な諸機能を確保することが必要です。

こうした観点から、定住自立圏全体の活性化を通じて人口の定住を図り、「集約とネットワーク」の考え方を基本として展開しようとする取組は、以下のとおりです。

① 生活機能強化のための取組

a) 医療

・地域医療センターエリア構想の実現

圏域における地域医療体制充実のため、周産期医療、小児医療、救急医療等のシステム構築のほか、7つの離島の緊急患者用ドクターヘリが離発着できるヘリポートを併設した「地域医療センターエリア」の整備について支援を行います。

・周産期、小児医療体制の充実

医師の確保が困難なために、不安を抱える周産期医療体制及び小児医療体制の充実を図り、安心して子どもを産み、育てることのできる環境づくりを進めます。

b) 福祉

・障害者福祉の充実

障害のある人の総合的な支援拠点を整備し、障害者福祉の充実を図ります。

・保育所統廃合

保育所の統廃合を行い、新たに認定こども園を設置するなどし、市民ニーズに合った保育所運営の推進を図ります。

c) 教育

・中高一貫校開校支援

早稲田佐賀中学校・高等学校開校による教育環境及び教育水準の向上推進を目

指します。

- ・大学連携の推進

大学連携市民公開講座等の開催により、広く市民に学習・研究機会の場を提供します。

d) 土地利用

- ・再開発ビル建設支援

中心市街地再建のリーディングプロジェクトとして、再開発ビル建設を支援し、圏域の中心部としての機能を維持します。

- ・特別用途地区の都市計画決定及び建築制限条例の制定

特別用途地区を中心市街地周辺部の準工業地域に都市計画決定することにより、中心市街地周辺部における大規模集客施設の立地を制限し、中心市街地の活性化と都市機能の集約を図ります。

e) 産業振興

- ・産学官連携・水産業活性化支援センター(仮称)整備

大学や企業と連携して、水産課題の研究ができる研究所を整備し、水産業の振興を図ります。

- ・企業誘致

厳木工業団地をはじめとする市内の企業立地適地への企業誘致活動を推進し、自主財源の確保、雇用創出、地場産業の振興を図ります。

- ・簡易水道の統合等

簡易水道と上水道の統合を進め、水道配水施設のネットワーク化及び広域化を図ります。

- ・新エネルギー活用推進

太陽光発電や風力発電等の推進により、環境に配慮したまちづくりを目指すとともに、新たな産業の振興を図ります。

- ・漁協合併支援

漁業協同組合の合併を支援し、漁業者の経営力強化を図ります。

- ・大学との連携

大学の研究機関との連携を深め、研究機関の誘致とともに、圏域内の各産業との共同研究、研究成果の事業化を進め、地場産業の活性化を図ります。

f) その他

- ・上記のほか、生活機能強化に関する分野に取り組みます。

② 結びつきやネットワーク強化のための取組

a) 地域公共交通

- ・地域公共交通総合連携計画の策定並びにコミュニティバス運行制度実証試験
唐津市地域公共交通総合連携計画を策定し、高齢化が進む周辺地域において、地元自治会等が行うコミュニティバス運行実証試験を後押しし、唐津型コミュニティバス運行モデルを構築します。
- ・生活路線バスのバリアフリー化・環境対応型車両への更新促進
低床型車両導入による、路線バスのバリアフリー化を支援します。
低燃費・低環境負荷型車両への更新を支援し、運用コストの削減によるバス事業者の経営健全化を図るとともに、生活路線バスの運行を維持します。
- ・離島航路のバリアフリー化
浮き桟橋が整備されていない地区の離島航路発着所に浮き桟橋を整備し、バリアフリー化を推進します。
- ・バス路線のICカード導入の支援
路線バスへのICカードシステム導入を支援し、乗客の利便性向上を図ります。

b) デジタル・ディバイドの解消に向けたICTインフラ整備

- ・全市光ケーブル網の有効活用
圏域全体をカバーする光ケーブル網を活用し、情報格差の解消とユビキタス社会の実現に向けたICTインフラの整備を行います。
- ・次世代型ツーリズムを目指した観光ユビキタスの整備
観光施設をつなぐサイン整備とリアルタイムな観光情報の発信により、イベント情報、体験観光情報、旅館・飲食店、駐車場等の情報のほか、乳幼児一時預かりや医療情報など、利用者(主に来訪者)のニーズに即した情報を提供します。

c) 道路等の交通インフラの整備

- ・西九州自動車道の整備促進及び連絡道路の整備
- ・佐賀唐津道路の整備促進
- ・唐津港の整備促進

d) 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

- ・食の祭典「鍋まつり」の開催による圏域全体における地産地消の推進
- ・地場農畜水産物取扱関係者間の情報交換システム構築による地産地消の促進
圏域内に点在する地場農畜水産物(一次産品)取扱業者間で入荷・販売状況等の情報を交換するシステムを構築することにより、給食等食材の安定供給が必要な施設での地場産品食材使用率の向上を図ります。

e) 地域内外の住民との交流・移住促進

- ・中国や韓国の友好姉妹都市との交流促進

友好姉妹都市との交流促進により、交流人口の増加を図ります。

・福岡都市圏との交流促進

福岡市から唐津市にかけての国道202号線を中心とした玄界灘風景街道活動による都市間交流の促進を図ります。

・インターンシップの促進

近隣大学(九州大学、佐賀大学)の学生を対象とした、インターンシップの推進により、定住促進を図ります。

・グリーン・ツーリズムの推進

市民や都市住民及び高齢者が気軽に農業体験ができるよう、グリーン・ツーリズムの普及や市民農園の開設等の支援を図ります。

・ATA事業の推進

民泊や体験型観光の推進により、交流人口の増加を図ります。

・唐津の魅力継承

圏域が持つ地域資源の有効活用を行い、交流人口の増加を図ります。

・コミュニティFMの整備

地域に密着したコミュニティFMの整備を支援し、圏域内の賑わい創出、地域の一体感の醸成を図るとともに、防災情報の発信により、安全・安心なまちづくりの推進を図ります。

・市民協働の推進

新たな公の創出のため、「市民参画」、「協働」、「地域コミュニティ」を基本方針として市民協働の推進を図り、地域力を向上させます。

f) その他

・上記のほか、結びつきやネットワークの強化に関する分野に取り組みます。

③ 圏域マネジメント能力強化のための取組

a) 人材の育成

・大学連携による人材交流及び職員研修

包括協定締結大学(九州大学、佐賀大学、早稲田大学公共経営研究科)との連携による人材育成を行います。

b) 外部からの行政及び民間人材の確保

・まちづくりコーディネーターの招聘

まちづくりコーディネーターによる中心市街地活性化の推進を図ります。

c) その他

・上記のほか、圏域マネジメント能力強化に関する分野に取り組みます。